

PREVIEW

ヨネックス大阪インターナショナルチャレンジ2019 大会展望

2007年に「若い選手たちが国際大会で経験を積む場にしたい」との思いからスタートしたこの大会も12回目を迎えることとなった。そしてこの大会から多くの選手が世界へと巣立っていった。

今では国際大会において男女とも多くのビッグタイトルを獲得し、世界ランキングは全ての種目で上位を占めている。そんな中、今年の5月からいよいよ「東京オリンピック」への出場権獲得に向けた熾烈な戦いがスタートする。

その前哨戦となるこの大会には、日本代表からナショナルB代表とナショナルジュニアが出場する。今年も若手の台頭と、壁となってそれを簡単には許さない中堅・ベテラン選手の激突、さらには世界に飛躍したい海外選手との対決など、多くの見所が満載の国際大会に相応しい戦いとなるだろう。

では、各種目の日本人注目選手にスポットを当てて紹介しよう。

まずは男子シングルス。全日本総合で上位進出はならなかったが、3連覇を狙う五十嵐 優（日本ユニシス）と、ベテランの域に入ってきたA代表の坂井一将（日本ユニシス）が優勝候補だ。対抗馬となるのは同じチームの若手、渡邊航貴（日本ユニシス）と全日本総合で五十嵐選手に競り勝った下農 走（トナミ運輸）あたりか。

女子シングルスは昨年の大会で優勝し、その後多くの国際大会で活躍している峰 歩美（再春館製薬所）に連覇の期待がかかる。その峰選手の手ごわい相手となりそうなのが漆崎真子（山陰合同銀行）だ。昨年全日本総合4強で日本代表に初選出され、今年に入ってもスウェーデンオープン優勝など勢いがある。若手では今春社会人となった水井ひらり（NTT東日本）の落ち着いたゲームメイクも見どころだ。

男子ダブルスは全日本総合4強の岡村洋輝（日本ユニシス）/小野寺雅之（早稲田大学）、国内ではA代表にも勝利する古賀 輝/齋藤太一（NTT東日本）、全日本総合のリベンジに燃える金子真大/久保田友之祐（トナミ運輸）の若手3ペアの誰が優勝してもおかしくない激戦となるだろう。

女子ダブルスは、国際大会でも活躍している次世代のエースと評価の高い志田千陽/松山奈未（再春館製薬所）が優勝候補の筆頭だ。昨年準優勝で全日本総合4強の櫻本/高畑（ヨネックス）が出場しないだけに若手にとっては上位進出のチャンスだ。

混合ダブルスは、過去6大会はすべて外国人ペアが優勝し、日本勢にとっては苦しい戦が続いている。昨年準優勝の久保田友之祐（トナミ運輸）が松山奈未（再春館製薬所）にパートナーを替え優勝を狙う。ジュニアナショナル選手や若手選手にとってペアとして練習する機会は少ないが、思い切ったプレーで存在をアピールする大きなチャンスといえる。